

# とよだ ふ ゆ 豊田 芙雄

幼児・女子教育の先覚 水戸市



(『水戸二高百年史』より転載)

弘化2年(1845) - 昭和16年(1941)。水戸城下の藤坂町〔水戸市五軒町〕生まれ。幼名は冬、夫の死後に芙雄と名乗る。幼い頃から学問を好み国学や漢学を修める。18歳の時に彰考館総裁豊田天功の長男である小太郎に嫁ぐ。芙雄が22歳の時、開国論者であった夫の小太郎が京都で暗殺される。明治8年(1875)、東京女子師範学校〔お茶の水女子大学〕の読書教師として招かれ、同9年附属幼稚園教諭となる。保母養成の手引き書ともいえる『保育の栞』を執筆。その他にも保育唱歌の制作など創成期の幼稚園教育の確立に尽力。明治20年(1887)にヨーロッパの女子教育を視察。明治34年(1901)に茨城県高等女学校〔水戸二高〕の教員となる。さらに大正12年(1923)、水戸大成女学校の校長に就任する。

豊田芙雄は、水戸城下の藤坂町〔水戸市五軒町〕で水戸藩士、桑原治兵衛の二女として生まれました。文久2年(1862)、芙雄が18歳の時に、彰考館<『大日本史』の編さん所、P.45・46 参照>総裁豊田天功の長男小太郎と結婚しました。このころの日本は、鎖国をやめ開国を進める人たちとそれに反対する人たちが互いに自分の考えを広めようと争っていました。豊田小太郎は、開国をすすめたいと考えていたため、反対派の人たちに暗殺されてしまいました。芙雄が22歳の時でした。すでに両親を亡くし、夫も亡くして一人ぼっちになってしまった芙雄は、(亡くなった夫の遺志を継いで学問にはげみ、これからの人生を教育にささげよう。)と決心し、明治3年(1870)、近所の子もたちを集めて塾を開き、和歌や漢学を教え、教育者としての第一歩を踏み出しました。明治6年(1873)に、発桜女学校〔五軒小学校〕ができると、芙雄はその教師になりました。

明治8年(1875)に東京女子師範学校〔お茶の水女子大学〕が開校したとき、芙雄は、校長の中村正直に読書教員として招かれました。翌年、中村は、同校に附属幼稚園を設立するとともに、芙雄を幼稚園の保母につかせました。しかし、設立されたものの幼稚園は初めてのことなので、西洋の幼稚園の仕組みや保育方法をどのように取り入れれば、日本の子どもたちに合う幼稚園になるのか考えていかなければなりません。

附属幼稚園には、幸い、日本人と結婚していた松野クララ夫人がおり、芙雄はドイツの幼稚園について一生懸命にクララ夫人から学びました。クララ夫人は、日本語があまり上手に話せなかったため、幼児への接し方や遊具について学ぶのも大変なことでした。芙雄はクララ夫人から学んだこ



作法を教える豊田芙雄  
(『水戸二高百年史』より転載)

とを『<sup>おんぶつたいい</sup>恩物大意』という本にまとめたり、『<sup>しあり</sup>保育の葉』という保育の手引書を作ったりしながら、保育の手引書を作ったりしながら、少しずつドイツの幼稚園の保育方法や遊具などの<sup>かんきよう</sup>保育環境を取り入れ、日本の子どもたちに合うように幼稚園を整えていきました。

そのころ西南戦争で荒れた<sup>かごしま</sup>鹿児島島の復興に苦心していた<sup>けんれい</sup>鹿児島県令〔<sup>ちじ</sup>県知事〕の<sup>いわむらみちとし</sup>岩村通俊は、<sup>じゅうよう</sup>幼児教育の重要性を感じて幼稚園をつくろうと考え、中心となって働いてくれる人物を探していました。明治12年(1879)、<sup>ようせい</sup>英雄はこの<sup>こた</sup>要請に応え、<sup>けんれい</sup>鹿児島県立幼稚園の設立のために、はるばる<sup>おもむ</sup>鹿児島まで赴きました。ここでの1年半の間、<sup>しや</sup>幼稚園舎の設計、<sup>せつけい</sup>幼稚園保育、<sup>ようせい</sup>保母の養成など献身的に働きました。

東京に戻ってからの英雄は、女子の教育のために力を<sup>つく</sup>尽くすようになります。明治20年(1887)からの3年間は、<sup>せんけん</sup>イタリア全権大使<sup>とくがわあつよし</sup>徳川篤敬に<sup>ずいこう</sup>随行して、ローマに<sup>みじん</sup>赴任し、ヨーロッパ各地の女子教育について調査しました。帰国後は、自分の考えを実現しようと東京に「<sup>すいほう</sup>翠芳学舎」を<sup>そうりつ</sup>創立し女子教育を行いました。

明治34年(1901)、57歳になった英雄は<sup>きょうり</sup>郷里の水戸に戻り、前年に開校した茨城県高等女学校〔水戸二高〕の教師となり、国語と家事を教えました。その後、79歳のときに<sup>たいせい</sup>水戸大成女学校〔大成女子高〕の<sup>つと</sup>校長を務めます。この間も、<sup>いそが</sup>忙しい合間を縫って県内外の<sup>しどう</sup>幼児教育の指導を行うなど、まさに<sup>もど</sup>幼児教育と女子教育に力を尽くした一生でした。

## ゆがりのスポットに行ってみよう

### 豊田英雄の銅像

所在地 水戸市大町2-2-14(水戸二高校門脇)

内容 この像は、豊田英雄が水戸高等女学校で女子教育に力を注いだことを<sup>たた</sup>称えるために、<sup>ぎょうせき</sup>豊田英雄の業績を<sup>きざ</sup>刻み、平成4年(1992)3月に建てられました。



### おもな 参考文献

『日本幼児教育の先覚』（渡辺宏・筑波書林・1981）

『水戸の先達』（水戸市教育委員会・2000）